

症例カンファレンス 熱中症

菅沼 栄 令和7年9月

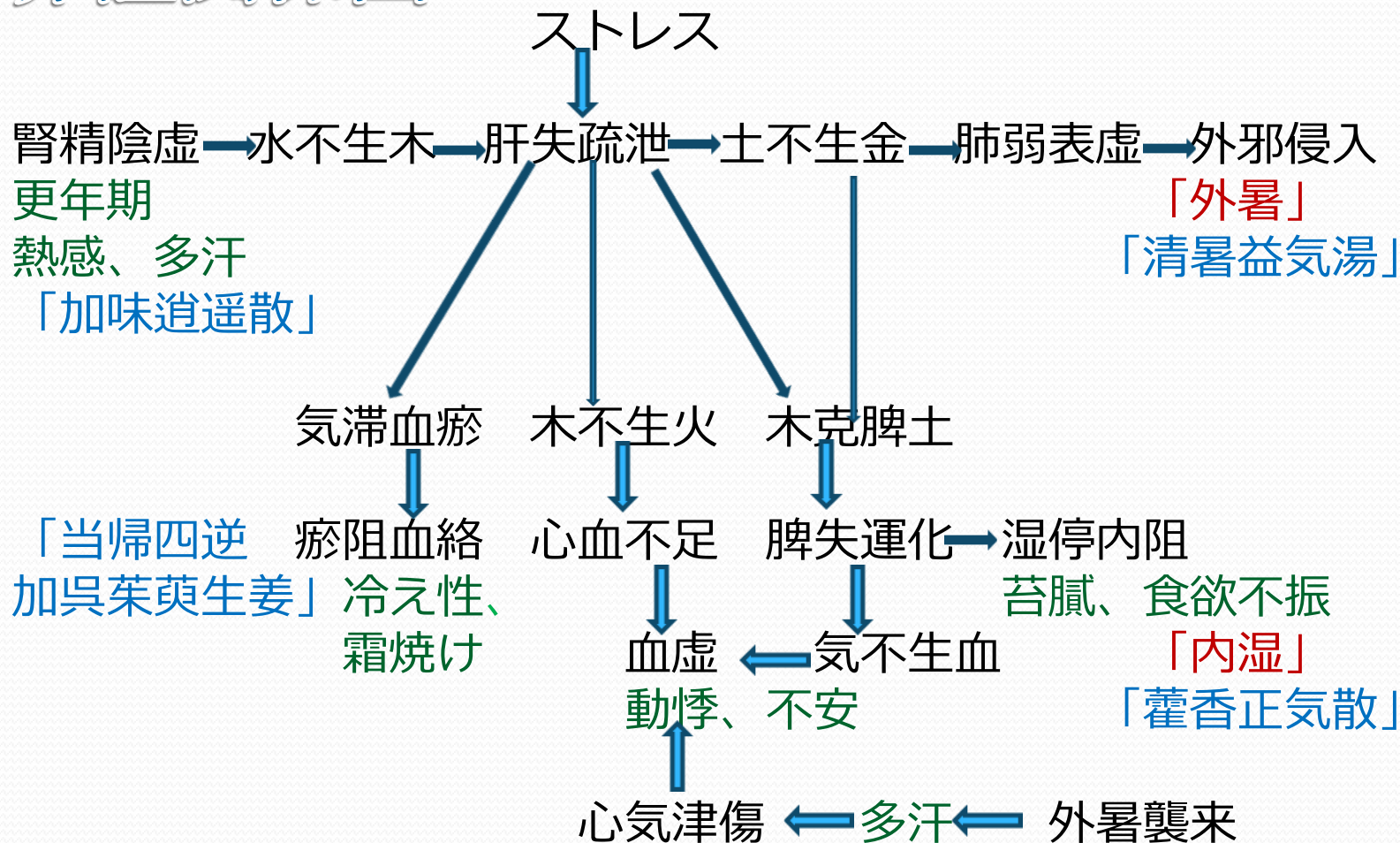
女性 52才

主訴：熱感、動悸、吐き気。

現病歴：一昨年の炎天下、自転車で20分でジムに着いた途端、気分が悪くなり、吐き気、熱感、多汗、動悸、脈拍110。血圧が正常、救急車を呼んで、熱中症と診断され、すぐ帰宅できたが、その後も元気が戻らなく、食欲が減少、疲労感が強い。便通正常、舌淡暗、苔薄膩、脈細。

既往歴：更年期症候群（ほてり、多汗、憂鬱）
「加味逍遙散」、冷え性（しもやけ）冬は＋
「当帰四逆加呉茱萸生姜湯」を服用している。

弁証関係図



弁証：中暑（暑湿証） 外暑裏湿

論治：清暑化湿・健脾和胃

方剤：「清暑益気湯」「藿香正気散」（一日2包ずつ）

経過：一週間後に、諸症状が改善され、
普通の体調に戻った、
秋まで「清暑益気湯」を服用し続けた

※この症例は日本の医師と一緒に見た症例です

弁証論治の要点

1 暑湿の中暑証と考える。外暑侵入と内湿阻止の互結による病態だが、急性期後の諸症状に対して漢方治療を希望するので、暑邪の消耗による脾、心、肺の症状を回復する「清暑益気湯」と内湿の症状を改善する「藿香正気散」を併用した。

2 更年期の症状に対して使用していた「逍遙散」をしばらく中止した。「先急後緩」「先表後裏」

3 中暑証の急性期に対しては「蒼朮加白虎湯」或いは「白虎加人參湯」「藿香正気散」或は「香蘇散」を使用することが考えられる。